**アンケートピックアップ**

**6月26日　株式会社大川印刷　代表取締役社長　大川　哲郎　氏**

**問１ 学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

環境に配慮していることが、企業価値になるという社会の流れには新鮮さを感じた。特に、ESG投資は面白い手法だと思った。企業理念や人生哲学のようなお話も熱の込った良いものであった。また、CSRという言葉は恥ずかしながら初耳で、これから企業を調べる際にぜひ注目したいと思う。社会貢献のお話でインクに含まれる石油でかぶれたり、吐き気をもよおす子供たちのことを考慮に入れていることには驚いた。クライアントのすみずみまで気を配り、商品だけでなく会社が必要とされることを目指すことが大切だと思う。利益と慈善事業が一体化して動くことには、新しいとは思ったが、実際そうなっているかは疑問に感じた。 (都市科学部　都市共生学部　1年)

「経営とは続けること」という言葉には同じく非常に納得させられました。最近の授業でよく企業の分析をしているのですが、その中で優れた経営をしている企業はどこの企業も売れると信じたものを何回も何回も繰り返し改良を続けているということが分かりました。そういった事を感じて行くうちに、真に優れた経営というものはひたすらに続けていくことなのではないのかと考えるようになりました。また、私自身も一族の企業の跡継ぎとして期待されていますが、私としては自分のやりたいことをしたいと思っているので、大川社長とはまた違った道を歩むことになるとは思いますが、本日の講義は非常に興味深いなと感じました。(経営学部 1年)

最後のお辞儀が非常に長く、丁寧であったことが非常に長く丁寧であったことが印象に残っています。年を重ねていらっしゃる方だからこそ言えるような深いことを色々聞くことができ非常に興味深かったです。自分は変わることができるのだからまず自分が変わって、徹底的に正しいことをやり続けることが本当に大切だと思います。このとき必要なのは忍耐と自分のブレない軸でしょう。自分が本当に大切にしたいことを見つけていきたいと思います。（経営学部　1年）

経営上で、本業を紐づける形で、売り上げとはまた違う、社会的価値を創造することにスポットの当たった講話は今回が初めてだった。顧客を獲得する以前に、社会福祉に貢献することで、「ファン」が増えるし、地域の一員として認められるだろうと思った。大川さんはさ「余裕がないからだ」とおっしゃっていたが、会社以外にも幅広く利益をもたらそうとする姿勢は、心のゆとりみたいなものなくしては立ち行かないだろうと思った。金銭的な余裕はない、とするならばなおさらすごいことだと思う。時代は変わって、市場以外の側面をケアしつつ、生産活動をする、社会を優先する、人を笑顔にする、これを地で行く会社は多いようで少ないと思う。先を見れば、地域に認められた企業は、仮に経営が苦しくなっても、サポートを得られるのではないだろうか。「人」がいてこその経営である、ということを改めて感じたお話だった。大川印刷さんには今のスタンスのまま大きくなってもらいたい。社会福祉貢献という理念がもっと多くの企業に伝播して行く時代が来てほしい。デジタル移行の傾向が強い中で紙の価値が再評価されてほしい。(経済学部　2年)

成功談や美談が多いなと感じていました。しかし今回はご自身の会社や大川さん自身がどんな困難に直面し、どのように乗り越えてこられたかを聞くことができたので参考になりました。講義で、紙媒体は環境のことを考えて白地に黒字、スライドは黒地に白字にしていると聞いて、とてもいいなと思いました。「これからの企業はこういうことも考えていかなきゃいけない」とおっしゃっていましたが、私はあまり考えたことがなかったです。単に利益を上げたり上場したりっていう目標だけでなく、そのプロセスや受取先のことを考える姿勢は大事にしていきたいです。（経営学部　1年）

大川さん自身の体験談が多く聞けて、人生何があるか分からないと感じました。父と兄の続けての死を乗り越えることが自分にできるかと問われたら難しいと思います。社員さんとの壁は若い経営者が直面するであろう課題だと思います。ただやみくもに自分の思いを伝えるだけでなく、相手の声に耳を傾けることが重要だと思いました。環境に対する取り組みも素晴らしいと思いました。CSR・CSVなどに関しては余裕のある企業がやるものだと思っていましたが、経営戦略に利用するというのは新しい考えでした。個人の利益や会社の利益が全てではないと確信しました。（経済学部　1年）

印象に残った言葉は、「１人のキチガイに３人のバカがついていくと世の中が変わる」です。誰かをまとめて成功するには、自分だけじゃ足りないということがわかりました。しっかり組織として機能する必要性を感じました。この組織をうまく機能させるためには、マネジメントの勉強をすることは勿論ですが、そのような卓上の議論だけではなくて、熱意や誠意を持って、自分が正しいと思うことを信じ、経緯を持って、周りの人に提示することが大切だと思いました。また、自分が売りたいものを売るための工夫は手段なのだということも知りました。手段をうまく利用して、その後どのようなアクションを起こし、社会にどのように影響を与えていくか、ここまで考えることがビジョンを明確化することに繋がり、ビジネスが成功することにもつながるのだということを学びました。（経営学部　１年）

印刷会社の社長としてのお話だけでなく、学生時代などこれまでの人生のことまで話してくださったおかげで、多くのことを学ぶことができました。講義の内容とは関係がないのですが、医療ミスで亡くなってしまったお父様や突然死で逝去なさったお兄様の話はすごく心が痛み、自分も共感できる点が多々ありました。また改めてこのような話を聞かせていただいたことで、日々の時間を大切に過ごそうという気持ちが湧き起こってきました。私自身、印刷会社の方のお話を聞くのは初めてで、印刷技術に関することもほとんど知りませんでしたが、インクの話や印刷工場が抱える問題点などを実際のニュースやお話を交えて説明してくださったおかげで、簡単に理解し、知識を吸収することができました。私達学生目線にあった講義となるように工夫をしてくださっていたので、すごく聞きやすかったです。ありがとうございました。(経営学部　1年)

人々へ幸せを送る文化を伝えるというミッション、喜びを重視したモノづくり・ことづくりの理念、先義後利という大切にしている言葉など様々ではあるがしっかりとした軸の一貫性があるからこそ、明治から会社が続いているなと感じました。(経営学部　1年)

「リーダーは孤独」という言葉が印象に残りました。従業員が自分の思うとおりに動いてくれなかったり、仲良くなれなれなかったりするのは、仕方ないことであり、それでもトップに立ち続け諦めないことで、ここまで続く会社が出来ると思いました。将来、自分がその企業を使って、社会に貢献できるかが重要ということを頭に入れて、就職する会社を選びたいと思います。(経営学部　1年)

中小企業にもかかわらず、Co2ゼロ印刷やSDGsを支援するためのCSR活動を多く行なっておりとても驚き、2020年までにゼロエミッション工場を目指していることに仰天した。「あらゆることは自身の選択によって行っている」という言葉が印象に残った。その言葉を受けて横浜国立大学に行くという選択をしたのは自分であるため精一杯自分が在学四年間できることを増やそうと思った。（経営学部　１年）

**問２ 今後のアクションにつなげていきたいこと**

就職が目的ではなく、就職してから社会に対してどうしたいかというのが目的だと仰っていました。大学に入学してから３ヶ月程経とうとしていますが、大学合格が目的となっていたことが切り替えきれていないので、自己理解を深め、もう一度計画を立て直します。（経営学部　１年）

真に自分が変わると人も変わるという言葉が心に残りました。私は教員を志望しているので、もし自分の担任するクラスに自分の思いが伝わらず、うまく関わることのできない子がいた場合、その子を変えようとせずに、自分を改めることを忘れないようにしたいです。（教育人間科学部　学校教育課程　4年）

**授業スタッフの感想**

大川さんは企業として、様々な社会的課題を解決するための活動をされており、経営の面だけでないところでも素晴らしい企業だなと思いました。「履物をそろえる」というお話を聞いた時、私は高校時代作動部に所属していたので、茶道と通じるものがあるなと思いました。小さなことに一つ一つ目を向けることで、自分に余裕を持つことができ、大きな変化を起こすことができるのだなと思いました。従業員や取引先の方々の信頼を得て、成功されたというお話を聞いて、とても感動しました。私も、小さなことでも気を付けて日々を過ごし、それを見てくれている人がいるといいなと感じました。

高校時代にエシカルビジネスの勉強をしていて、当時は買い物しているときなどにこの商品はどのように作られたのかを考えて買っていたのを思い出した。大学生になってから顧客、顧客という意識に変わっていて（もちろんこの意識も欠かせないが、）生産者、生産国の労働問題だとか環境だとかいう観点が薄れてしまっていたことに気づき反省した。人としていいことをしたい、人を大切にしたい、これが前提にあることが重要だと心から思う。再度、SDGsなどの諸課題の知識を深め、課題解決に取り組みたい。

今回の登壇者は珍しく起業家ではありませんでした。起業家の話も大切ですが、多くの人は大川さんのように「今ある会社をどのように立て直すか」という問題に直面していると考えているため、家業を継いだ大川さんの話は大変有意義だったのではないかと思います。「手段と目的を混同しない」「他人の行動ではなく自分の行動を変える」など印象に残る言葉はいくつかありました。しかし、話の中で強調されていないが印象残った部分があります。それは、「環境にやさしい印刷会社を目指したのは小学生時代の経験にある」という言葉です。小さい頃の経験は、将来を決定づけることもあるのだと知りました。